

第3回湖西市新庁舎建設ワークショップ 議事要旨

日 時：令和6年12月14日 10時～12時

場 所：湖西市役所3階 委員会室

出席者：15名

傍聴者：6名

ファシリテーター：愛知大学 地域政策学部 教授 菊地裕幸 氏

(1) 次第

1 開 会

2 ワークショップ

①意見の集約

- ・建設場所について
- ・集約化する施設について
- ・必要な機能について

3 その他

(2) 議事要旨

ファシリテーターによる進行のもと、これまでのワークショップで出された意見の振り返り、参加者から新庁舎に必要な機能についての意見が出されました。

1. 建設場所について

・現庁舎敷地について

現庁舎敷地は市の中心部に位置しており、新たに用地を取得して移転する場合と比較し土地取得費用を抑制できる、耐震性や地質条件が既に理解されていること、駐車場を広く確保できるなど賛成の意見が多く出されました。一方で、車で来庁できない人に対し、公共交通網を充実させるなど、訪れやすい環境を整備することが課題として挙げられました。

・その他の建設場所について

鷺津駅、新居駅周辺やバッテリーロード周辺を候補とする意見がありました。駅周辺は公共交通の利便性や都市発展の将来性を見据えた魅力があるという意見が出されました。一方で、移転先の用地確保や地質調査、利用者が新しい場所に慣れるまでに時間が必要であることや他の公共施設から離れることで連携しづらくなるなどの課題も指摘されています。

2. 複合化（集約化）する施設について

窓口業務の効率化や市民サービスの利便性向上を理由に、集約化を支持する意見が多く見られました。特に、出生・死亡などの手続きをワンフロアで対応できるようにするなど利便性の向上、効率化が必要という意見が出されました。

一方で、財政面の負担を考慮し、行政部分のみ集約するといった必要最低限の集約化に留めるべ

きとの意見もありました。また、災害時の拠点を保持するため、現在の施設を一部残すべきだとの提案もありました。

3. 必要な機能について

新庁舎は、市民にとって利用しやすく、効率的かつ持続可能な施設であることが求められています。主に下記の4つの観点で多くの意見が出されました。

①利用者に優しい庁舎

すべての利用者が快適に安心して利用することができ、また、災害時の避難や地域拠点等、多機能で柔軟な空間の整備について意見が出されました。

- ・バリアフリー設計（広い通路、エレベーター、車椅子対応設備など）
- ・ユニバーサルデザイン（点字ブロック、音声案内、多言語対応の案内板など）
- ・子育て世代への配慮（授乳室、キッズスペース、おむつ交換スペース）
- ・高齢者に優しい設計（移動しやすい構造、休憩スペース）
- ・災害時に対応可能な多目的フリースペースの確保

②窓口の業務の効率化

窓口業務の効率化を図り、サービスをワンストップ化するなど利用者の負担を軽減する仕組みについて意見が出されました。

- ・窓口業務の集約化（各種届出などの手続きを1箇所で完結）
- ・窓口フロアの低層化（昇降によるフロア移動の負担軽減）

③持続可能な建物や設備

災害時の対応や省エネルギー化による持続可能な庁舎について意見が出されました。

- ・エネルギー効率の高い設備の導入
- ・災害時にも安全性を確保する免震構造
- ・環境に優しい太陽光発電や屋上緑化の導入

④職員が働きやすい環境

職員が快適に働ける環境整備により、業務効率と市民サービスの質向上について意見が出されました。

- ・明るい内装や木材を使った温かみのあるデザイン
- ・夜間でも安心できる十分な照明
- ・職員の動線を考慮した効率的なレイアウト設計